

もっと安心農産物 にんじん(秋冬どり)栽培暦 (令和2年度)

JA千葉みらい 千葉東部地区出荷組合連合会

1. 土づくり

完熟堆肥(牛ふん等)2トン/10aを施用するか、輪作体系にソルゴーやヘイオーツを作付する

2. 施肥 (化学肥料由来の窒素分の上限 7.5kg/10a)

下記のいずれかより選択し、施用する

施用量は **基肥** と **追肥** の合計施用量

量

	肥料名	保証成分(%)	施肥量(10a 当たり)
基肥 + 追肥	粒状人参専用V	6-7-5(有機態窒素3.2)	240kgまで
	特スーパーにんじんブリケット688	6-8-8(有機態窒素3.6)	240kgまで
	やさいみどり有機	8-9-7(有機態窒素4.0)	180kgまで
	きらめき888	8-8-8(有機態窒素2.5)	130kgまで

土壌改良資材は、土壌診断結果に基づき必要量を施用する

3. 防除……播種から収穫までの化学合成農薬は 8 成分回数まで

(フェロモン剤・ポリオキシシンAL水和剤・ゼンターリ顆粒水和剤は含まない)

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	対象病害虫	備考 (耕種的防除の実施等)
7月下旬	施肥	センチュウ	①ネマトリンエース粒剤 または D-D	20 kg/10a 播種前 15~20 L/10a 作付の10~15日前まで	ネグサレ センチュウ ネコブ センチュウ	施用した粒剤の防除効果を高めるため、均一に散布し、丁寧に土壌混和する
		ネキリムシ	②フォース粒剤 または ダイアジノン粒剤5	4 kg~12 kg/10a 播種前(全面混和) 6 kg/10a 播種前(全面混和)	ネキリムシ類	
8月上旬 中旬 下旬	播種		③ゴーゴーサン細粒剤F または ゴーゴーサン乳剤	4~5 kg/10a 播種後出芽前 (雑草発生前) 200~400ml/10a	畑地一年生 雑草	しみ腐病の発生が多い圃場には、作付を避ける しみ腐病回避のため早蒔きを避ける
9月上旬 中旬 下旬	間引き	キアゲハ・ハスモンヨトウ —— 黒葉枯病 ——	④⑤アミスターオブティ フロアブル	1000倍 収穫21日前まで	黒葉枯病 しみ腐病	葉の弱い品種は、本葉4枚前後から早期防除を実施する
10月上旬 中旬 下旬	中耕		⑥ランネット45DF または フェニックス 顆粒水和剤	1000倍 収穫前日まで 2000倍 ~4000倍 収穫前日まで	アブラムシ類 ヨトウムシ ハスモンヨトウ ヨトウムシ	
			⑦ロブラール水和剤	1000~1500倍 収穫14日前まで	黒葉枯病 班点病	黒葉枯病の発生が多い場合は ポリオキシシンAL水和剤 500倍 5回以内 収穫7日前まで ヨトウムシの発生が多い場合は ゼンターリ顆粒水和剤 1000倍 発生初期 但し、前日まで
			⑧アフーム乳剤	2000倍 収穫前日まで	マメハモグ リバエ	
11月上旬 中旬 下旬	収穫 ↓					

☆みんなで守ろう生産基準